伏見康司（ふしみやすじ）　株式会社伏見建築事務所　代表取締役　大工　一級建築士　一級建築施工管理技士　新建奈良支部

奈良県生駒市で、主に在来軸組み工法の戸建て木造住宅を手掛ける工務店を営んでおります。昭和の終わる頃に通い弟子として大工の修業に就き、七年後に父親の経営する工務店で大工をしながら、積算や現場の管理を覚えました。平成の初めに起こった景気後退期に巻き込まれ、価格競争にも追従できない時代を経験しました。

軸組の加工は工場での機械刻みに変わり、新建材の組み立てを繰り返す一方、折角の身に着けた技能を活かしたい、木を触りたいという思いは無くなりませんでした。下請けの仕事であっても、木づくりやしゃくり（溝切り）加工、そして仕上げの鉋掛けなどを手で施す仕事があれば現場へ赴く時期がつづき、たとえ実入りが少なくても悦んで仕事ができました。木を取り扱えることがわかってもらえることで、もう一度その依頼が来るようになったと思っています。工場での機械刻みが出来ないような、特に難しい現代的な木組みの設計には、気分を高揚させ、挑む思いで墨付け、手刻みを楽しみました。

年がら年中、途切れることなく仕事が続くとは限らないと、常々思っていたものですから、自分以外の大工職人の雇い入れは、その時々に間に合わせる「応援大工」に頼っていました。その人たちとは気心が知れ、腕前も良く知る熟練大工で、仕事に区切りがつくと、次にまた仕事を頼みたい時までは、ご無沙汰の繰り返しでした。自分の師匠も含めた年配の大工を相手にすると、思った通りに仕事をしてもらえなかったりしても、気を遣ううちに何も言えず、黙って一人で補ったり、目を瞑ることを繰り返していました。そんな仕事で引き渡しをして、施主に対しての申し訳ない気持ちもありました。

１２年前に独立をしてからは、仕事が無ければ無かったで、ゆっくりすれば良いという思いとは裏腹に、このまま何も残さずに終わることの残念無念さがありました。時代背景もあり、若手をこの業界に誘うことを疎かにするうち、見渡しても三十歳代以下の大工がいないことに気が付き危機感と使命感がわいてきました。おかげさまで、立て続けに仕事の依頼が来たものですから、気を使いながら「応援大工」に頼るより、思い切って自分の思いを受け継いでくれる人材の育成に目を向けました。ここ数年は熟練大工に加え、五年を経験した若手を筆頭に、二十歳代の大工四人と共に技能を十分に発揮できる仕事に携わっています。

政策に後押しをされるところもあり、地域の木材やそれを供給する環境にまで踏み込んだ取り組みができる状態であります。そのことが、総合的に良い方向になりつつありますが、流行りに左右されることなく、地域社会とのかかわりを持ち、景観形成や快適な住空間の供給に必要とされるような職であり続けるために、取り組むべきことは何なのかを唱えながら次につなげたいと考えています。

原木生産

吉野林業

立木を見る
木の特性を知る

建築（納材）現場へ
施主と会う

林道整備
山主山行

建　築

手の仕事
職人の技能

定期点検
維持管理

奈良をつなぐ家づくりの会

「奈良をつなぐ木の家」

・県産材をふんだんに使い、木の温もりを感じる家をつくります。
・職人（大工、左官）の仕事の多い現場をつくります。
・室内建具は既製品を使わず製作します。
・外観のよく見える部分に木を使い、外壁は左官工法でつくります。
・夏場の強い日射を避け、家を雨から守るために、軒の深い家をつくります。
・自然風を活かすために、風通しの良い家をつくります。

製　材

原木仕入
木材加工

需要品の製材
乾燥技術

技能の継承
人材育成

森林環境
持続可能

地域材使用
景観形成

設　計

木材利用
職人活性化

生活者

現状の把握
実体験

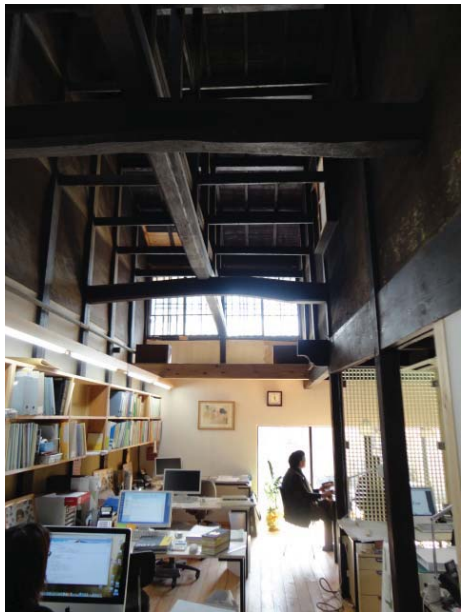
地域型住宅ブランド化事業/地域型住宅グリーン化事業

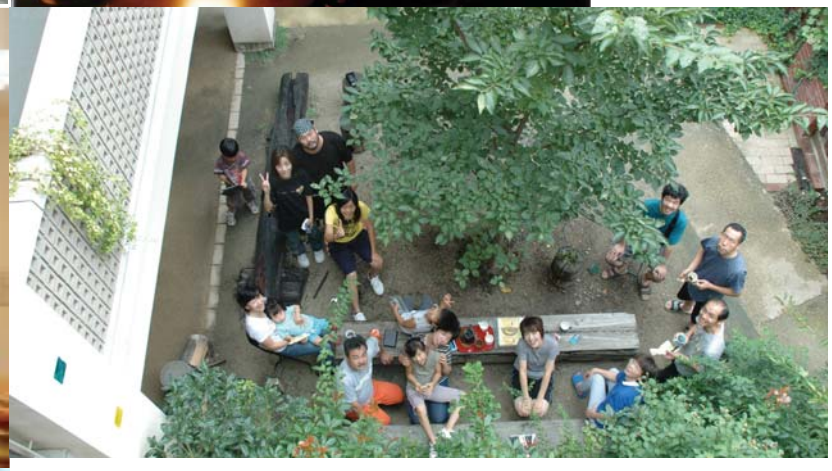
伏見康司　新建奈良支部（株）伏見建築事務所　代表取締役　大工　一級建築士　一級建築施工管理技士

自己紹介シート

企業組合もえぎ設計　川本真澄

設立28年目
従事組合員９名
非従事組合員５名
京都市上京区
築100年の町家オフィス





私たちもえぎ設計は
参加する組合員が自ら出資し、対等平等の関係の中で運営しています。また生活者としての立場を尊重し、働き続けられる労働環境づくりにも取り組んでいきたいと思っています。
　住まいづくりを基本にしながら、子どもの施設や環境づくり、医療や福祉施設づくりに取り組んでいます。”住む人使う人と一緒に”をキーワードに
　そして集まってつくり暮らす住まいづくりに、スローペースながら関わっています。

コーポラティブハウスの実践
・・コーポだからできたこと

カマラーダドーモ

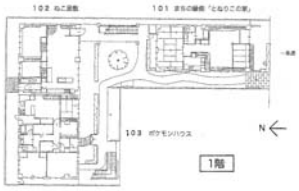
地主の熱い想い、地上権方式のコーポ
社会福祉法人に恩返し
１階にグループホーム　２階にデイサービス
上階に５戸の住戸　　見守りあい・地域の安心

栗の木コーポ

相国寺の旧借地権付き住宅を12戸のコーポに

さくらコート

L型敷地にはまり込む９戸
通りに面してまちの縁側「とねりこの家」



なな彩コーポ

学区にこだわるメンバーが土地探しから自分たちで
2013年の建設費高騰、消費税UPで苦戦するも
「現代のムラづくり」と住人たちの自己評価

コーポラティブハウス六花舎

さくらコートの近所の地主さんが土地利用として
コーポラティブハウスを選択
入居1年目から町内地蔵盆に参加

町に開く暮らし（設計事務所+やさい料理+カステラ工房）

自己紹介

伴　現太　/ 連・建築舎

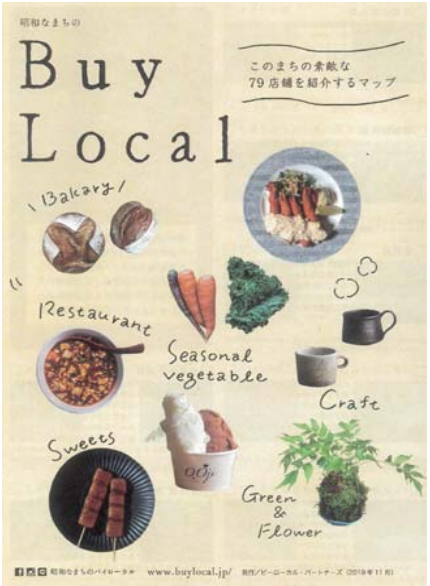
大阪市出身、北海道大学建築工学科　2000年卒
安藤建設、ヘキサを経て、2007年連・建築舎を設立
2011年より大阪中央区・谷町六丁目より阿倍野区桃ヶ池町の築90年の4軒長屋
（通称：桃ヶ池長屋）へ事務所兼住まいとして移転。

「連・建築舎」わたしの設計事務所
「やさい料理　はこべら」妻の飲食店
「千明さんのカステラ」母のカステラ工房
「伴家」家族５人と猫一匹

【町につながる、長屋暮らし】
桃ヶ池長屋・むすびの市（町とモノづくり人、生産者をつなぐ）
昭和のまちのバイローカル（町の良質な小商いを守る活動）
オープンナガヤ大阪（長屋活用事例の紹介。大阪市大長屋保全研究会主催）

桃ヶ池長屋・むすびの市

オープンナガヤ大阪参加



ちびっこ計画・大塚謙太郎一級建築士事務所

ちびっこ計画・大塚謙太郎一級建築士事務所

大原紀子　GreenGardenLeaf（グリーンガーデンリーフ）代表

■建築と造園をつなげたい

私は現在個人で造園の設計・監理・請負をしています。もともとは建築学科を卒業し、アトリエ系事務所で住宅の設計監理に走り回っていました。その中で外構や庭の設計に割く時間は少なく、図面を描くのは最後だったりした記憶があります。私自身も植物に興味も知識もほぼゼロでした。ある時から環境問題を考えるようになり造園の道へ舵を切りました。公共の造園設計をメインとするランドスケープコンサル、民間の設計施工の仕事をする会社と場所をかえて働きますが、「？」という疑問がだんだん大きくなっていきました。その「？」というのは、建築は造園、特に植物が苦手、一方造園は建築の事に踏み込まない、この溝でした。これは私の勝手な感想であり、あくまで自分がいた環境だけのものなので間違っているかもしれません。しかし現在の仕事の場面ではこの溝は明確に存在します。

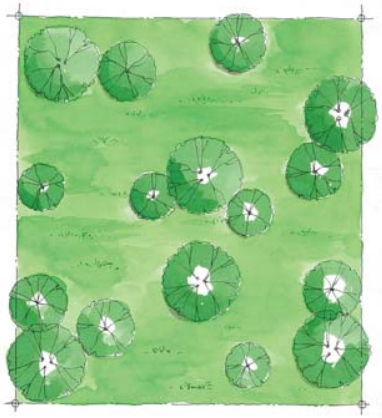
住宅の新築工事では建物の配置の段階から造園に相談されることはまずありません。アプローチや駐車場などの必要な舗装をし、空いてるところに木を植える。ザックリいうとそういう内容です。住み手使い手がどのような日常を送ったら幸せなのか、という話には参加できません。窓から１年中緑を見ながら洗い物ができる台所や、誕生日の頃に花が咲くのを楽しみにできる事や、子ども達だけでお泊りキャンプができるお庭や、そんなところから建築と造園が設計のスタートに一緒に話をするのは可能だし、楽しい気がするのです。普段の仕事は新築は少なくリフォームがほとんどです。住まい手が日常の中で幸せを実感できる場を家の外の空間、外と内の中間領域で見つけ出しています。

実際の仕事として「まちづくり」という広範囲なレベルでの経験はありませんが、基本の考え方は同じだと思っています。都市計画は地図を広げて上からガッと山を削ってダーッと道を通して、街をねじ伏せるのではなく、人が住んだり使ったりする場所として人の目線でつくり上げていくべきです。その際緑を介在させる方法を計画者同士でうまく共有し、“暮らし”を中心に創造するのは出来ないことはないと思うのです。

昨年大阪府建築士会さんの主催で植栽のセミナーをさせていただきました。ちょこっとでも建築をかじっていた経験を活かして建築家の方々に植栽や造園手法をお伝えし、造園の世界でも建築をもっと身近に捉える機会をつくっていきたいと感じます。絶対それは住まい手使い手を幸せにすることだと信じています。

図と地を反転させる

はじめに **地** を緑にします。

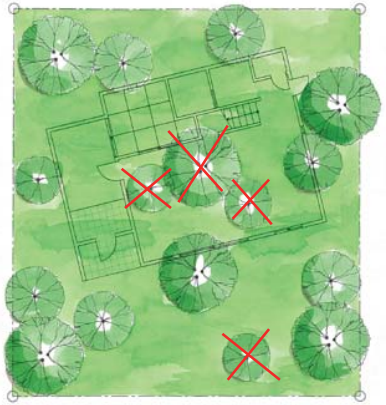


もともと敷地は豊かな林である

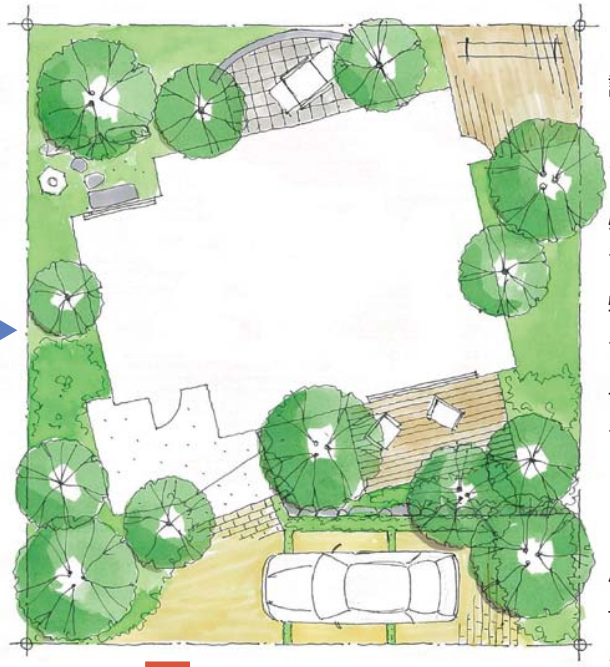
とまず考えます。

次に

家を建てるので何本か木を
撤去処分しなければならない



と、撤去を最小限にするために
家の配置を考えます。



それが **図** になります。

木に遠慮して建物を配置しアプローチや
駐車場や庭のテラスなど、どうしても必
要な舗装部分を計画します。

という過程を踏んでいるつもりで造園の
計画をします。
こんなプロセスは実際の仕事ではありえ
ません。
必要な面積、間取り、法規的にクリアし
ている事、デザインなどを検討された建
物が敷地にポンっともうすでに配置され
ています。
その空いているところに「ここで成長し
ていいですか？」と遠慮がちに木が植え
られます。
『図と地』の反転は『建物と緑』の関係を
反転させ、それは彩りと潤いと癒しと幸
せのある暮らしを、住まい手に供給でき
ると思います。

住宅の緑は街の緑を形成する

Before

住宅街は以外に緑が少ない―この仕事をやってきた
実感です。百花繚乱の塀が建ち並ぶ街に緑を開くこ
とで、街の緑化が変わります。１本でいいから木を
外にだすと 20 軒で 20 本、両側で 40 本の木が通
りに出現します。

After

単なる面積の緑被率ではなく、『緑感率』
を意識しています。立体的な緑、奥行をもっ
ている緑、梢を見上げた時の緑・・・
平面や立面の緑は、絶対に見ることができ
ないし、数字で表わされる緑に心は動きま
せん。